

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和6年 年 2 月 28 日

事業所名 スタースマイル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		子どもの体調に合わせて部屋を分けたり、長期休暇や活動内容によって分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		それぞれの部屋に職員が付き、1対1で支援が行えるようにしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		トイレは車いすが入るように広く、手すりをつけている。写真や絵を用いて視覚的な情報が得られるようにしている。また、段差がなくバリアフリーとなっている。	避難口が卑いすか通りにくい構造となっている。避難の際にスムーズに移動できるように日頃から職員と連携を取りながら改善していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		児童の来所前に送迎車、室内の消毒を行っている。また、入れ替わる際も換気や消毒を行い、清潔を心がけている。活動に応じて部屋を分けている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		月に一回の職員会議や長期休暇や行事前には打ち合わせ、振り返りを行い課題や改善に向けて情報共有をしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		保護者向けアンケートを配り、保護者の方々の意向等を把握し、業務改善に繋げている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		自己評価表をホームページに公開している。まだ改善されていないものもある。	ホームページに公開しご意見を元に業務改善を行います。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		現在までに第三者からの評価は受けておりません。今後は第三者からの評価を受け業務改善を行っていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		内部研修は月に1回、外部研修に参加し知識を広げている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		児童の状態や保護者からの情報を元に、計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		アセスメントツールを使用し、子どもの状態を把握するため詳しく記入している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		保護者の皆様からの情報、各機関からの情報を元にその子の特性に合わせて、ガイドラインに沿った支援を心がけています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		月に一度支援内容を見直しながら支援が行われている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		日案を計画し朝礼で伝え、職員全員が把握できるようにしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		個別のトレーニングはその子に合わせた内容であり、集団活動も様々な遊びを取り入れながら子どもが飽きないように支援をこころがけています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		個別で行う活動と集団活動を分けてプログラムを組んでいる。	利用状況によって差がでる為子どもが参加しやすい環境作りを行っている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		日案を立てた職員が朝礼時にスケジュールを伝え役割分担を決めている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		次の日の朝礼で昨日の様子を伝達し記録している為休みの職員も後で見直せるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		日々の支援の記録の記入を徹底している。	記録を元に支援の検証は行っていない為今後、検討していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		最長で6か月に1回、必要に応じてその都度面談を行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		子どもの状況に詳しい現場職員も一緒に会議に参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		電話や担当者会議を通じて情報共有、連携を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		必要に応じて各関係機関を連携を取りながら、その子の合わせ医療面での情報共有や連携を行っている。また、実際に利用している時間に訪問して頂くこともある。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>		必要に応じて保護者から主治医の指示書を頂き職員が把握しそれに沿った支援を行っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		こども園や幼稚園等、必要に応じて会議を開いたり送迎時に情報交換を行いスムーズに移行ができるようにしています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		<input type="radio"/>	送迎時に学校の先生と情報交換を行うことができて情報が共有や相互理解ができているとはいえない。	必要に応じて会議を開き、保護者の意見も聞きながらスムーズに移行ができるようにしていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		<input type="radio"/>	保護者を通じてリハビリの計画書の提出や実施している訓練内容の情報共有は行っているが、研修や直接の助言は頂いていない。	今後、他事業所との連携を図っていき研修等受けられるように努めていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>	支援センターを利用する機会はあるが、保育所、こども園などの交流は行っていない。	色んな場所での経験ができるように努めていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	自立支援協議会の情報は収集しているが、事業所が対象となる協議会はまだ開催されていない。	今後も情報収集しながら開催時には積極的な参加をしていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時、連絡帳にて保護者と情報共有を行っている。相談がある場合は必要に応じて面談も行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		現在までに明確なペアトレーニングが行えていない為今後は研修を行いながら表現をめざしていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行い署名、捺印を頂くようにしている。運営規定は玄関に設置し保護者がいつでも閲覧できるようにしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドライン、サービス利用計画、又保護者の意向を聞き取り個別支援計画を作成を行っている。その後、策定会議で話し合い再度、保護者にも説明を行い署名、捺印を頂くようにしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		電話や送迎時に保護者から相談がある場合は、必要な助言、アドバイスを伝えるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度は親子遠足を開催したが、保護者のみの会は開けていない。	今後は状況を見て保護者会が開催できるよう努めていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		課題や苦情を頂いた際は、朝礼などで話し合い、情報共有しすぐに対応できるようにしている。又ノートにも記録し休みの職員にも把握できるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一度活動の様子、行事予定を発行し保護者の皆様に情報伝達している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		契約時に同意書を交わり、書類は鍵付きの書庫で管理しています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードや写真、言葉かけの使用等児童に合わせて変えている。保護者とは連絡帳、送迎時に情報共有を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の方々との交流はできていない為、今後状況を見ながら交流の場を設けるように努めていきます。
非常時等の	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを作成し職員間で周知見直すようにしている。	保護者の方々にも閲覧できるような体制を整えていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回以上訓練を行うようにしている。	つ後は防犯等様々な災害や事故に対しての訓練を行い、保護者の皆様にも様子を伝えられるように努めてまいります。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に服薬や確認を行い、職員全体で把握し見える場所に提示している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時にアレルギーの有無を聞き一覧表を作成し職員が常に把握できる場所に張る。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあった場合は記録し、必ず職員全員が確認するようにしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に一度研修に参加し事業所内で伝達を行っている。また、密室での空間を避けたり子どもとの対応に職員同士の目が行き届くようにしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時に身体拘束の同意書は頂いているが現在までに身体拘束をした事例はない。	

○この「児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。